

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 33 週 2026 年 8 月 10 日 ~ 8 月 16 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、

手足口病が警報レベル継続中です。

水痘が注意報発令されました。

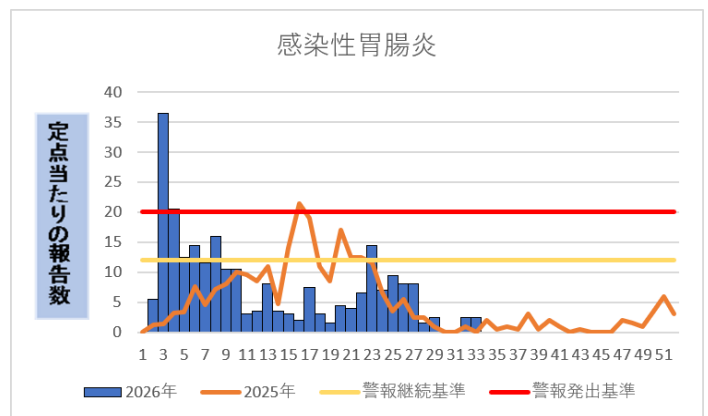
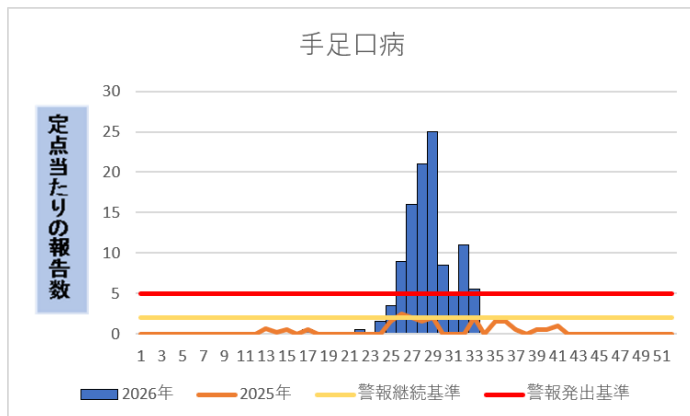
2026 年第 33 週の報告です。

○手足口病定点あたりの報告数は、南丹 5.5(前週 11)、京都府 1.97(前週 3.39)となっています。

○感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 2.5(前週 2.5)、京都府 1.59(前週 3.16)となっています。

○水痘の定点あたり報告数は、南丹 1(前週 0)、京都府 0.24(前週 0.68)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

南丹保健所管内で手足口病が警報レベル継続中です！

手足口病に注意しましょう

現在、手足口病の報告数が増加しています。手足口病は、乳幼児を中心に夏に流行しやすい感染症で、保育所や幼稚園など集団生活の場で広がりやすいことが特徴です。

手足口病とは？

手足口病は、ウイルスによる感染症で、主に口の中や手のひら、足の裏などに水ぶくれを伴う発しんが現れます。感染してから 3～5 日程度で症状が出始め、発熱を伴うこともあります。高熱になることはあまり多くありません。まれに髄膜炎や脳炎といった中枢神経系の合併症や心筋炎等が起こる場合があります。特別な治療方法はなく、症状に応じた治療をすることになり、多くの場合は 3～7 日程度で自然に回復します。

感染経路

手足口病は、咳やくしゃみによる「飛まつ感染」、患者の唾液や発しんに触れる「接触感染」、便に排泄されたウイルスが口に入る「糞口感染」特に小さなお子さんは、おもちゃの共有やおむつ交換などを通じて感染が広がりやすいため注意が必要です。

予防のポイント

手足口病には国内で承認されている有効なワクチンや予防薬はありません。感染予防のために、次のことを心掛けましょう。

石けんと流水によるこまめな手洗い、おむつ交換後の手洗いの徹底、排泄物の適切な処理、タオルの共用を避ける、咳エチケットを守る。症状が治った後も便の中にウイルスが数週間排泄されることがあるため、手洗いの習慣がとても大切です。

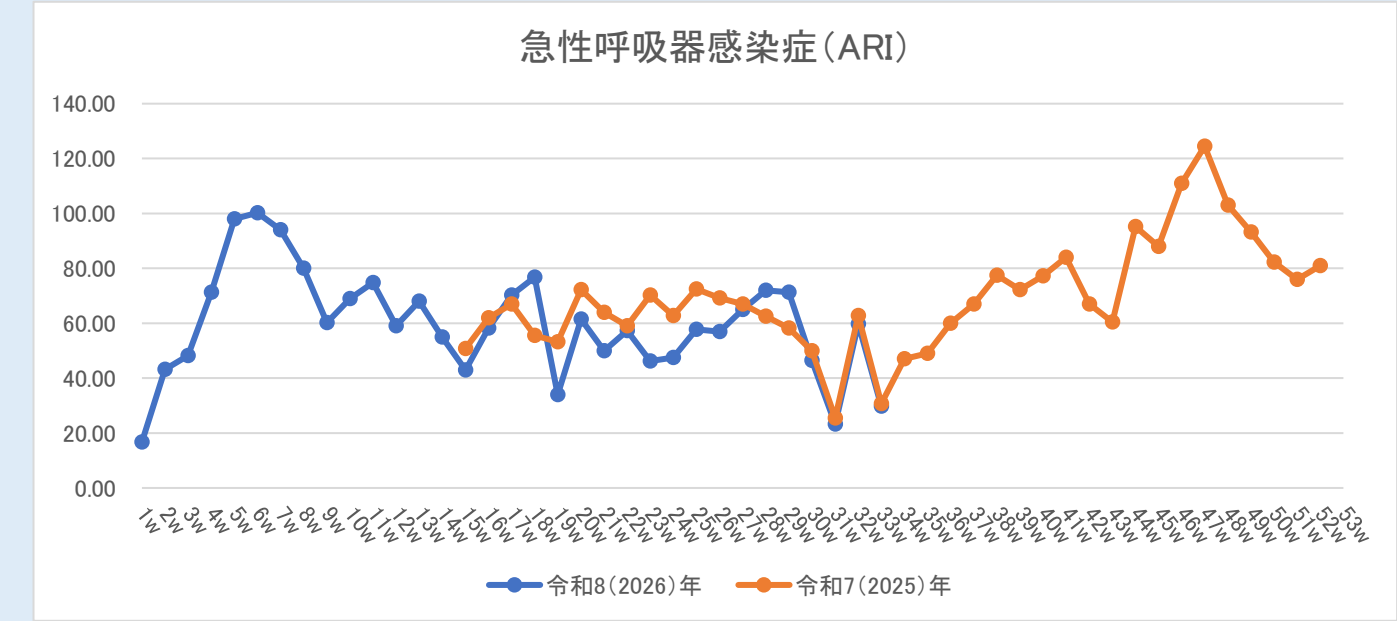
手足口病について、詳しくは[手足口病](#) | [厚生労働省](#) | [厚生労働省](#)のホームページをご覧ください。

	警報レベル		注意報	R8.33w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	0.25	↗	0.00
新型コロナウイルス感染症				0.50	↘	1.00
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	↘	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		0.50	↘	2.50
感染性胃腸炎	20	12		2.50	→	2.50
水痘	2	1	1	1.00	↗	0.00
手足口病	5	2		5.50	↘	11.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.50	↘	2.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症 (ARI)について

急性呼吸器感染症 (ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 33 週報告数は 119 件(定点当たりの報告数 29.75)でした。 [京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)